

■日時 令和6年8月8日（木）午後2時00分から

■場所 甲府市役所本庁舎4階 大会議室

■出席委員 14名

■欠席委員 5名

■事務局

福祉支援室長、保健衛生総室長、長寿介護課長、健康政策課長、医療介護連携担当課長、地域保健課長、
外一般職員6名

■次第

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 議事
 - (1) 「高齢者いきいき甲府プラン（R3～R5）」の評価について
 - (2) 介護サービスの整備状況等について
 - (3) その他
- 4 閉会

■議事審議内容

- (1) 「高齢者いきいき甲府プラン（R3～R5）」の評価について

【委員】

資料1 p.4 「配食サービス」について、高齢者人口が増えてきている中で件数が少なくなってきているが、どのような理由で減少しているのか。

【事務局】

デイサービスやショートステイ等の居宅サービスの利用の拡大と、民間配食事業者の参入による利用者の選択肢が増えたことが減少の理由であると考えている。

【委員】

資料1 p.3 「第2層協議体」について、エリアによる隔たり等はあるのか。

【事務局】

第2層協議体について、本市では31地区で協議体を設置することを目指す中で、現状12地区に設置している。徐々に設置数を増やしていく取組をしていく中で、最終的には31地区にしたいと考えている。

【委員】

資料1 p.5 「地域における成年後見制度に関する出前講座及び医療職と介護職の顔の見える関係づくり交流会回数の開催回数」について目標回数未達成の理由は何か。特に成年後見制度については1回の開催であったが、成年後見制度については周知が十分ではないという実感があるので、行政側からのプッシュ型での活動がもっとあってもよいのではないか。

【事務局】

出前講座の開催回数について、市民からの要望により出向いて講座を行うものであるため、広報活動をする中で開催回数を増やしていく計画であったが、広報が行き届かない部分があり回数を伸ばせなかった。今後は広く広報する中で開催回数を増やしていく考えである。

【委員】

出前講座の開催回数について、計画はして周知を行ったが参加者がいなかったということか。

【事務局】

要望により開催という形態であり、なかなか要望があがらなかった。

【委員】

市の事業としてやっているものなので、「待ち」の事業としてやっていくのは消極的で、やり方が違うのではないかと思う。

【委員】

資料1 p.7 介護保険制度全般について「満足」と回答する人の割合、在宅サービスについて「満足」と回答する人の割合が未達成であることについて、不満足と回答した理由として自由記載欄はあったのか。また、あった場合はどのような理由が記載されていたのか。

【事務局】

介護サービスにおいて不満足と回答した理由について、令和4年度に行った利用者満足度調査では自由記載欄の項目はなかった。

【委員】

自由記載で不満足の理由等があれば課題に向けての検討ができると思うので、次回から検討してもらいたい。

【事務局】

次期計画策定前にも調査を行うので、質問項目等も含めて検討していく。

【委員】

資料1 p.8 「医療と介護の切れ目のないサービス提供の推進」について、課題・今後の方向性欄に「支援の内容が複雑化していることにより、支援に困難感を感じている方が多い」とあるが、具体的にどんな困難感を抱えているのか。

【事務局】

高齢者が増えることにより身寄りのない方、ひとり暮らしの方が増えていく中で、それぞれの家庭にあった支援が必要になってくること。また、高齢者数の増加により多様なケースが出てきている状況であることが挙げられる。

【委員】

それは支援に困難感を抱えているということになるのか。

【事務局】

身寄りのない方の家族の同意を得ることが難しい点や、施設入所の際に家族の支援がないと入所が難しい場合があることなどがあり、支援が困難であるという声がある。

【委員】

資料1 「「高齢者いきいき甲府プラン（R3～R5）」の評価について」のp.8 課題・今後の方向性欄に、「住民向けの在宅療養普及啓発は、高齢者の主体的な意思決定を踏まえたACP（アドバンス・ケア・プランニング）も併せて周知している。ACPのツールとなる「わたしの想いノート」を積極的に活用する働きかけを継続実施する。」とあ

るが、昨年、市からいただいた「わたしの想いノート」の数が少なすぎて活用の仕方が分からなかった。見本をもらただけのような感覚であった。今年度はこの事業をどう進めていくのか。

また、「わたしの想いノート」の認知度をどう上げていくのか。

【事務局】

「わたしの想いノート」については、令和5年度に1,800部作成をしたが、すぐになくなってしまった。これは連携中枢都市圏で改めて増刷する予定があったため、発行部数を抑えたことによるものである。今年度は既に連携中枢都市圏で60,000部作成しており（甲府市分としては19,000部）、各事業所や公共機関等に配布している。

認知度については、市としても地道に普及啓発していく必要があると考えているため、関係機関等に周知をする中で配布を行っていく。また、出前講座で要望のある自治会については積極的に説明を行っていく。加えて、健康づくり同窓会の中で各地区に周知を行っていく。さらに、連携中枢都市圏の取り組みとして、12月にACPの普及啓発を目的に映画上映会とトークセッションを行う予定であり、その際の受付時に配布するなどして普及啓発を行っていく。

【委員】

ACPについて、「わたしの想いノート」が活用されている事例を見たことがない。現状どう活用されているのか。また、追跡調査は行っているか。

【事務局】

現状は各事業所、各包括支援センターにお任せしている。そこでどう使われているかについての追跡調査は行っていない。

今後は病院からの退院時に渡し、将来について考えていただくことや、ケアプラン作成時にケアマネージャー等から周知していけるよう考えている。

【委員】

全体的な実施状況の形式について、一覧表になっていて見やすいと思うが、基本的に各事業の目的がどの程度達成しているかが成果指標となる。また、目的を達成するためにどのような活動をしていくかが活動指標となっている。理想としてはこの二つであるが、現実では数値をとることや理想とする指標での効果の測定が難しい場合などがあり、制約があると思う。この場合、似たような指標で成果を測っていくことが必要となってくるが、今回の説明を聞いてみると、成果指標と活動指標があまり区別されていないのではないかと印象を受ける。次回からの検討事項としてほしい。

【事務局】

この計画については令和5年度で終了し、今年度からまた新しい計画となるため、成果指標、活動指標についても一度再考していく。

(2) 介護サービスの整備状況等について

【委員】

第9次介護保険事業計画の整備計画において、サ高住やショートステイから居住系への転換により定員数を確保する計画となっているが、定員数を増やす手立てとしてなせ軽費老人ホームは含まれないのか。定員数を確保する手立ては多い方がよいのではないのか。

【事務局】

整備計画については、山梨県が示す圏域ごとの整備計画が大元であり、その中で本市の整備計画を位置付けている。そのため、山梨県と調整を行いながら今後の整備については検討をしていく。

【委員】

民生委員として地域を回る中で耳にする意見として、最期を自分の家で迎えたいという意見がとても多い。それに対し、本整備計画では訪問介護等の整備の記載がほとんどない。市民の要望に応えるためにどのような政策を採っていくのか。

【事務局】

本整備計画は、地域密着型サービス限定の計画を記載しているものである。その中で、本市としても在宅介護の推進は重要であると考えており、看護小規模多機能型居宅介護の整備を行っていき、医療が必要な介護度が高い方でも極力在宅で生活が出来るようサービスを充実していきたいと考えている。

【委員】

訪問系の事業所が少ない現状では、サービス提供区域を広範囲にすることも必要であると考えているが、実際は限られた区域しか回れない現状であるという声を耳にする。サービス提供区域に対する制約等はあるのか。

【事務局】

地域密着型サービスについては、日常生活圏域という概念が存在し、計画に記載されている定期巡回・随時対応型訪問看護については、従来はサービス提供区域が限定されていたが、今期の計画からは制約等おかけしていない。

【委員】

訪問介護の事業者数が減少してきており、在宅介護に大きく影響するものであるため、市としての支援をしてもらいたい。

【事務局】

3年度ごとの報酬改定があり、それぞれの事業所の置かれている立場も異なってきたが、その中で事業所が困らないように、また変化に対応できるように保険者として支援を行ってきた。それぞれの事業所の困っていることや市として協力できることなどの意見を伺いながら可能な限りの支援を行っていき、介護保険制度が安定的に運営できるよう努めていく。

【委員】

昨年の分科会で訪問介護の事業所数について伺ったところ、増えているとの回答であった。しかし事業所に話を伺ってみると、大規模の訪問事業所が廃止したときに、勤めていた介護職員たちで別の小規模事業所を複数立ち上げるといったことを話していた。その場合、数字の上では事業所数は増加しているかもしれないが、大規模から小規模で複数の事業所になると全体的なキャパシティとしては減少しているため、サービスが行き届かないところが出てくる。市としては、数字だけでなく実態を見てもらいたい。

【事務局】

様々な事業所に寄り添い、意見を反映できるよう努めていく。

資 料：

1. 高齢者いきいき甲府プラン事業実施状況（令和5年度）
2. 介護サービスの整備状況等について